

第6章 今後の展開方針

6. 今後の展開方針

第4章及び第5章の検討結果を受けて、今後の北陸圏における接続型都市圏の展開に向け、北陸圏の強みである接続型都市圏の維持・発展、高齢者が安心して暮らすことのできる生活環境の実現の2つの視点に着目し、施策を提案する。

6.1. 北陸圏の強みである接続型都市圏の維持・発展

北陸圏の強みである接続型都市構造は、生活圏の単位が連担して構成されている。今後、北陸新幹線の開通を契機として、活力の低下が見られる生活中心都市を中心に現状の地域構造に大きな影響を与えることが予測されている。

個性豊かで暮らしやすい北陸圏の特徴を維持・発展していくためには、衰退の危険性のある生活中心都市の活力を再生することで接続型都市圏構造を維持し、さらに強みを強化するために生活圏間の連携を推進していくことが望ましい。

また、生活圏は、県庁所在市に加え、高岡市や小松市等の接続する都市を核とした都市と農山漁村の共生する中で、誰もが暮らしやすい生活を維持する上での基本単位ともなっており、そのような生活圏を強固なものとしていくことは、北陸圏における強みを維持・強化する上でも重要な課題である。

北陸圏では、すでに県内第二の都市において人口減少や地域産業の衰退傾向がみられており、本項では、今後低迷が予測される生活中心都市として、富山市と金沢市の中間にある高岡市を例に、施策の展開を想定する。

6.1.1. 広域的な交流・連携による生活圏の活力の再生

- ・ 釜山を中心とした日本海対岸との定期航路が就航し、北陸圏における外貿コンテナ輸送量が増加する中、高岡市では、富山高岡広域都市計画区域マスタープランにおいて、「国際交流基盤となる伏木富山港や富山空港を活用した物流拠点などの整備を通して環日本海地域全体の発展をリードする都市づくりを推進する」ことを掲げており、既存インフラを活用した物流拠点の形成による地域活性化に取り組んでいる。
- ・ 高岡市が物流拠点化することで、就労の場を確保し、生活中心都市としての都市機能の維持、生活圏の活力の再生を図ることが可能となる。

施策展開の方向性

～ 高速交通ネットワークや港湾機能に近接する

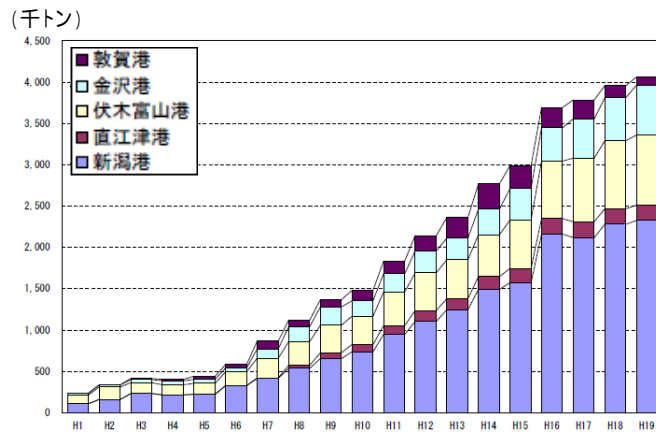
立地特性を活かした広域物流拠点の形成～

- ・ 地域の立地特性強化に向けた高速交通ネットワーク機能の充実と港湾機能の強化
- ・ ほくろく健康創造クラスター構想を視野に入れた産学の連携と新たな企業誘致

【地域の立地特性強化に向けた高速交通ネットワーク機能の充実と港湾機能の強化】

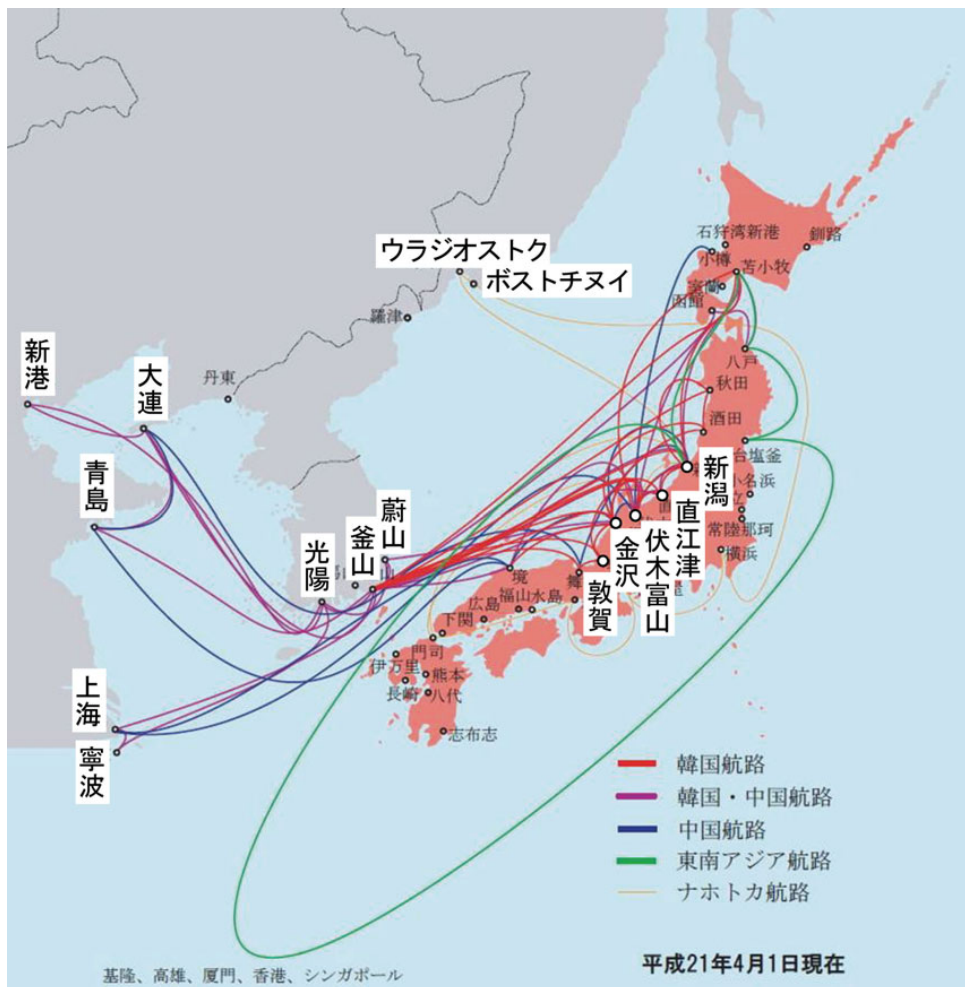
東海北陸自動車道や能越自動車道等の高速交通ネットワークの充実
伏木富山港の港湾機能やアクセスの強化

- ・物流拠点の形成にあたっては、高岡市の立地上の特性である伏木富山港や富山空港、東海北陸自動車道、北陸自動車道との隣接性と、これによる三大都市圏へ繋がる広域物流ネットワークの活用が重要であり、この立地特性の強化を図る。



【出典】北陸地方整備局 HP

図 6-1 外貿コンテナ輸送量の推移



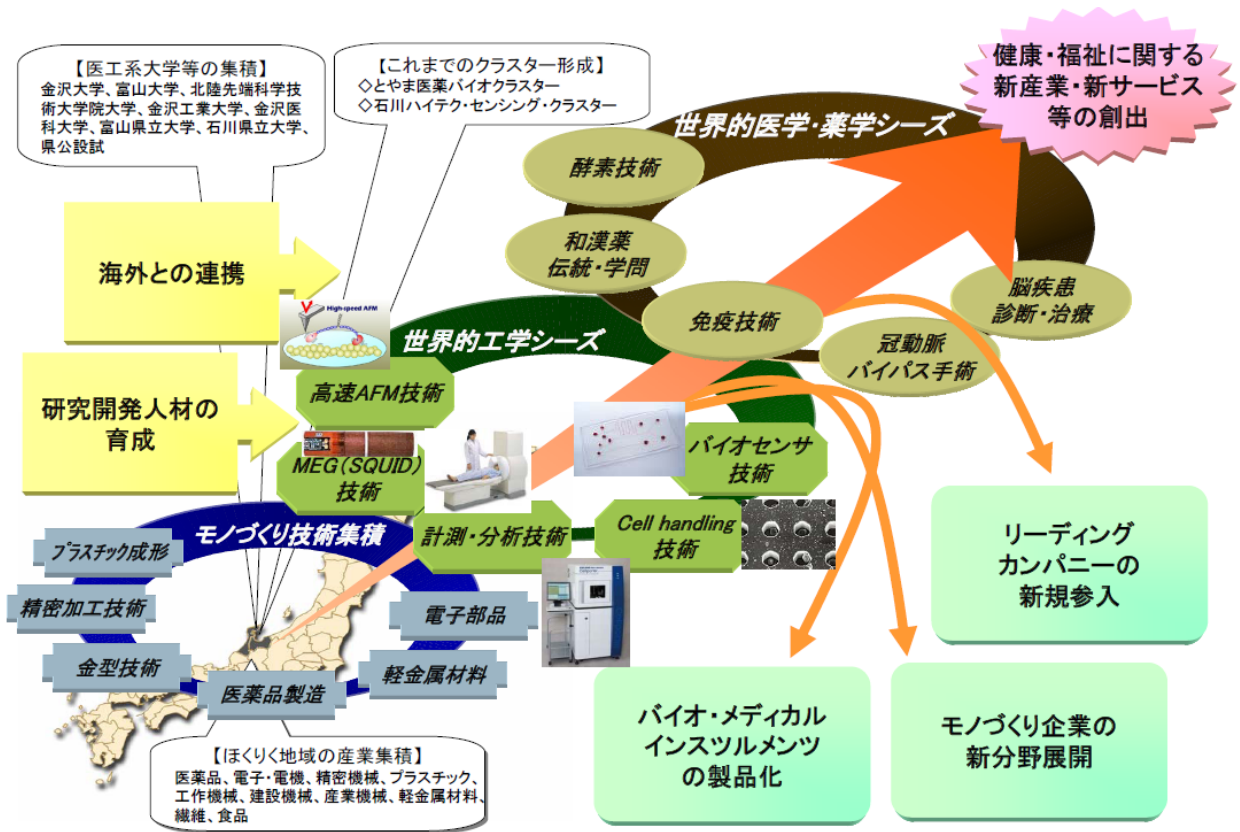
【出典】北陸地方整備局 HP

図 6-2 管内定期航路

【ほくりく健康創造クラスター構想を視野に入れた産学の連携と新たな企業誘致】

高岡市だけでなく、生活圏を構成する自治体、県及び国を交えた連携の検討
 ほくりく健康創造クラスター構想などの地域産業の取組と協調し、工業団地、大学などの
 研究機関及び企業との連携による物流拠点化の推進及び新たな企業誘致

- ・ 富山県では「ほくりく健康創造クラスター」形成に向けた取組の展開や、北陸国立大学連合の取組が見られる。
- ・ これらの取組を広域的な物流拠点機能強化へと結びつけるため、取組と一体となった産業集積に向けた支援を図る。



【出典】文部科学省 HP

図 6-3 ほくりく健康創造クラスター形成の全体構想図

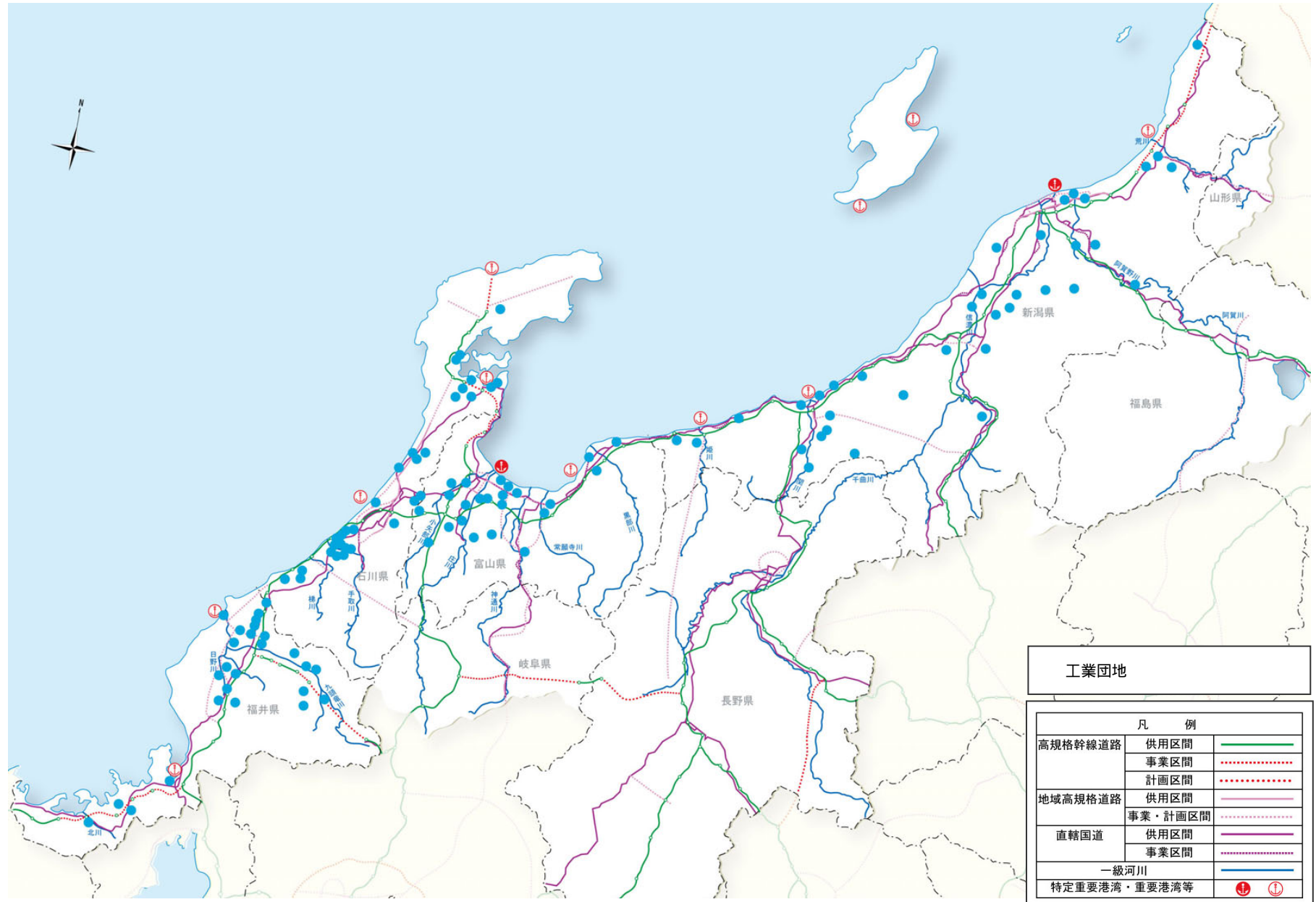


図 6-4 工業団地の分布状況

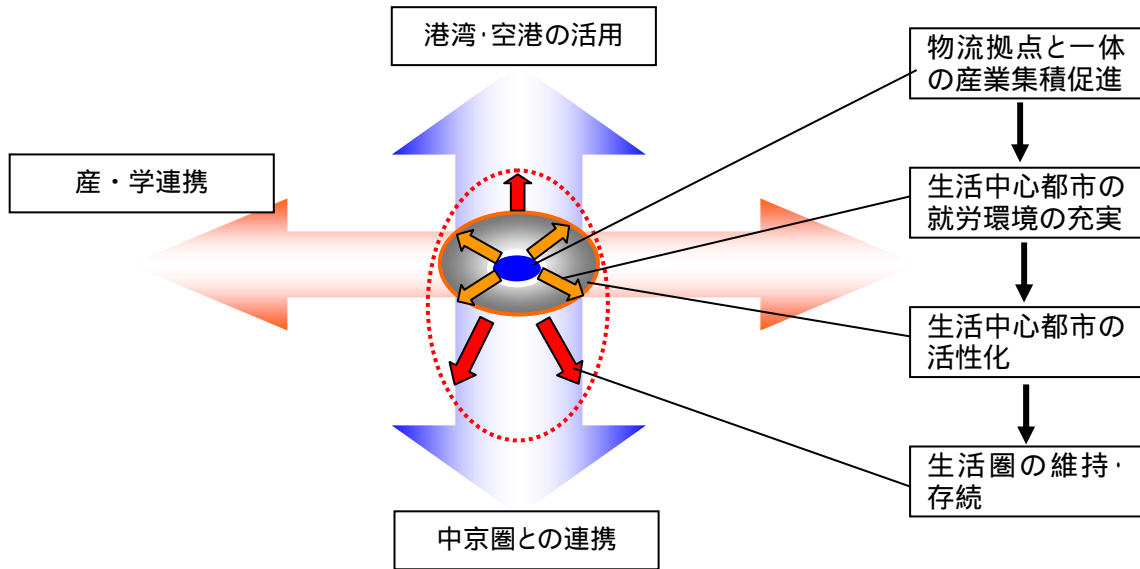


図 6-5 広域物流拠点の形成

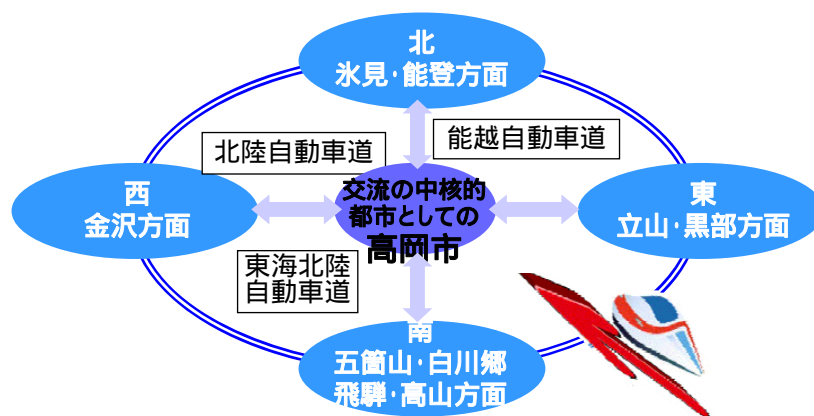
施策展開に当たっての課題は、次のとおり。

施策展開の課題

- ・ 広域的な取組としての組織体制の確保
- ・ 広域的な位置づけの明確化

6.1.2. 都市圏の魅力を活かした新たな広域交流の創出

- ・北陸の主要な観光資源である金沢、能登、黒部・立山、五箇山などの各資源間距離は50km～100km程度と離れており、各資源を観光ルートとして結び付け、これによって集客、滞在時間の延長・宿泊に結びつけるためには不利な状況にある。
- ・高岡市は、これらの観光資源の中間に位置しており、能越自動車道高岡 IC・高岡北 IC や、新幹線駅（新高岡駅）の整備など広域交通機能についても充足が期待できる。
- ・このため、高岡市を交流の中核的な都市とすることにより、各観光資源をつなぐ新たな観光ルートの設定し、観光客の滞在時間・宿泊を増加させ、北陸圏において新たな広域交流を創出することが効果的である。



【出典】金沢市・富山県西部広域観光推進協議会に関する高岡市長 記者会見

図 6-6 高岡市における交流拠点のイメージ

- ・高岡市を交流の中核的な都市とするためには、「(1) 高岡市の歴史的資源を活かした観光地としての魅力向上」「(2) 金沢・能登地域との連携による知名度の向上」「(3) 広域交通機能の利便性向上によるターミナル化」が必要である。

施策展開の方向性

～高岡市の観光ターミナル機能の形成による北陸圏の新たな観光ルートの創出～

- ・高岡市の歴史的資源を活かした観光地としての魅力向上
- ・金沢・能登地域との連携による知名度の向上
- ・広域交通機能の利便性向上によるターミナル化

(1) 高岡市の歴史的資源を活かした観光地としての魅力向上

【観光資源の活用による新たな観光機能の創出】

高岡市景観計画の着実な進捗

工芸品を活かした産業観光機能の創出

食と歴史・工芸品のパッケージによる新たな観光機能の創出

- ・高岡市は、富山県内唯一の国宝である「瑞龍寺」をはじめ、加賀百万石の文化に根ざす「高岡銅器」「高岡漆器」「和菓子」、立山連峰が映える雨晴海岸、重要有形・無形民俗文化財に指定されている高岡御車山祭、近年では「高岡コロッケ」など多くの観光資源を有している。



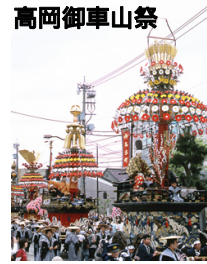
瑞龍寺



雨晴海岸



高岡漆器



高岡御車山祭

【出典】高岡市観光ナビ HP

図 6-7 高岡市の観光資源

- ・高岡市では、「高岡市景観計画」において、歴史的な資源を活かした歴史景観の形成を掲げ、瑞龍寺周辺（高岡駅南側）や古城公園周辺（高岡駅北側）等を景観形成重点地区に指定し、建築物の高さ規制・屋外広告物規制、建築意匠等の基準設定を行うこととしている。
- ・これらの歴史景観を活かし、地域の活性化に結びつけるため、工芸品や食を活用した新たな観光機能を創出し、歴史景観と工芸品・食のパッケージによる魅力の向上を図る。

【観光資源を活かした回遊機能の強化】

観光資源間の連絡に資する公共交通機能の充実

高岡駅周辺整備事業にあわせ、高岡駅を中心とした徒歩による南北観光ルートの設定

- ・高岡市における加賀百万石に関連する歴史的資源は、高岡駅を中心として南北に分かれて半径約 1,000m 内に立地している。
- ・高岡市では、「利長くんバス」を期間限定で運行し、高岡駅の南北に立地する観光資源間の連絡を強化している。
- ・南北に立地する観光資源間を回遊することで、滞在時間の延長や経済効果を向上させるため、公共交通機関による連絡の継続的な強化に加え、高岡駅を中心とした徒歩による回遊性の強化を図る。



【出典】高岡市観光ナビ HP

図 6-8 高岡市内の観光資源

(2) 金沢・能登地域との連携による知名度の向上

金沢市・富山県西部広域観光推進協議会による広域連携の構築等の着実な進捗
能登半島広域連携観光交流推進協議会との連携による新たな観光ルート等の検討

・高岡市は、金沢市などと同様に加賀百万石の歴史・文化による観光資源を有しつつも、知名度等において単独での広域的な誘客には苦戦する状況にある。

・金沢市などとの広域的な地域資源への近接性を活かした広域交流の取組として金沢市・富山県西部広域観光推進協議会（金沢市、射水市、小矢部市、高岡市、砺波市、南砺市、氷見市）が設立されている。

【金沢市・富山県西部広域観光推進協議会】

○圏域全体の広域連携の構築

- ・「加賀藩学」の提唱による広域資源の整理
- ・歴史・文化・食・工芸といった観光資源を巡る広域観光ルート（加賀藩・参勤交代ツアー等）構築。
- ・観光資源を巡る加賀藩パスポート（仮称）の発行。
- ・首都圏・中京圏における「加賀藩学講座」の開催（東京都板橋区、名古屋市中区等）や集中プロモーション。

○推進体制の強化

○圏域内各地の受入環境整備・魅力向上

○外国人観光客向けの情報発信の強化

・高岡市の観光地としての知名度を向上させるためには、金沢市との連携のほか、温泉地として全国的な知名度を有する能登地域と連携し、観光誘客に取組むことが効果的である。

(3) 広域交通機能の利便性向上によるターミナル化

・金沢地域・能登地域等の主要な観光地の観光客のうち、約 60%が自家用車・観光バス、約 30%が鉄道である（石川県観光統計）ことから、高岡市がこれらの地域と連携を強化していくためには、自動車・鉄道利用の利便性の向上が重要である。

・また、これらの主要な観光地域は、北陸圏外からの観光客のうち約 70～80%が三大都市圏からであり、これらからの誘客を想定した検討が必要である。

【新幹線新駅整備と連携した鉄道利用ターミナル機能の強化】

高岡市をターミナルとする広域的な観光ルートの検討

新高岡駅～高岡駅のアクセス機能の強化と市内観光地への誘客方策の検討

・北陸新幹線の整備が進捗しており、今後、関東からの主な交通手段となる可能性が高い。

・高岡市では、高岡市都市計画マスタープランにおいて、北陸新幹線の新駅整備とあわせた在来線駅の再整備による新たな都市核の形成、及び広域交流の拠点化の推進により市の活性化に結び付けるとしている。

・北陸新幹線・新駅の整備を北陸圏の新たな観光ルートの形成に繋げるために、高岡市の施策等と連携して新幹線開通を契機とした鉄道利用におけるターミナル機能の強化を図る。



【出典】高岡市資料

図 6-9 北陸新幹線新高岡駅（仮称）周辺まちづくり計画（道路ネットワーク）

【公共交通の広域利用利便性の向上】

- 電車、バス、タクシーを含めた地域共通乗車券などの導入
 観光施設の入場等にも共通利用できるICカードやポイント制などの仕組みづくりの検討
- ・現在の公共交通は、観光客の広域的な移動や乗り継ぎ、あるいは観光誘客につながる施策について、地域や经营主体の違い等から効果を発揮できない状況にある。
 - ・観光客が利用しやすい環境を構築し、鉄道利用ターミナル機能の強化を図るため、広域的な移動の利便性を向上させる施策の導入・検討を図る。

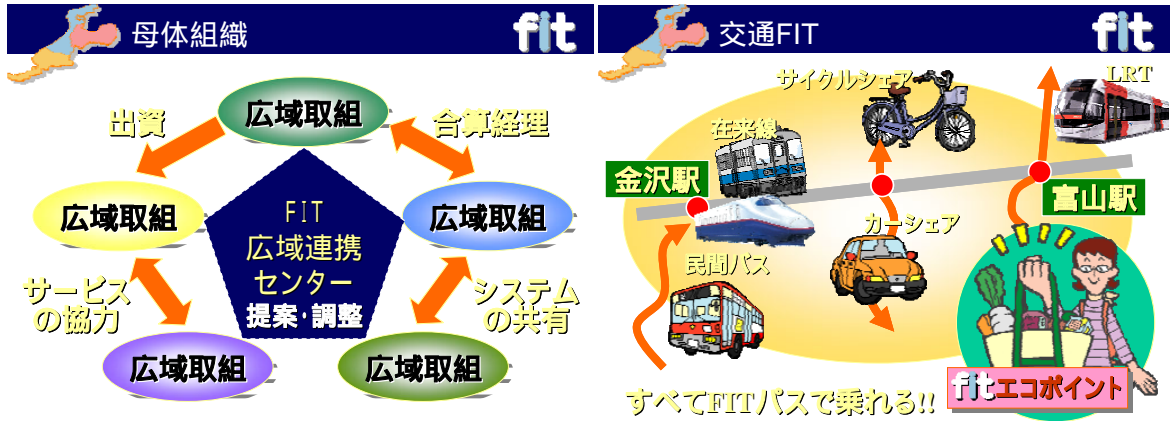


図 6-10 交通 FIT の観光との連携 (K-CAT 資料)

【高速交通ネットワークの充実等による自動車利用ターミナル機能の強化】

- 能越自動車道の整備促進
 北陸自動車道高岡インター(スマートインター)の整備
 料金割引や観光地での ETC 対応駐車場の整備 など

- ・従来の東西方向の北陸自動車道に加え、南北方向の東海北陸自動車道の全線開通により、交通量や中部からの観光客が増加している。
- ・観光資源の広域的連携を促進していくため、連携の基盤となる高速交通ネットワークの一層の充実や、利便性を向上する施策を展開により、高岡市の自動車利用ターミナル機能の強化を図る。

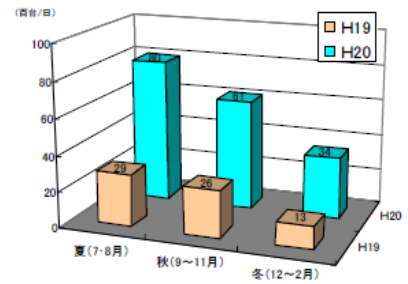


図 6-11 東海北陸自動車道開通から2月までの日平均交通量の比較 (白川郷～五箇山間)



【出典】NEXCO東日本「ドライブプラザ」HP

図 6-12 高速交通基盤の利便性向上 (道路の料金割引) のイメージ

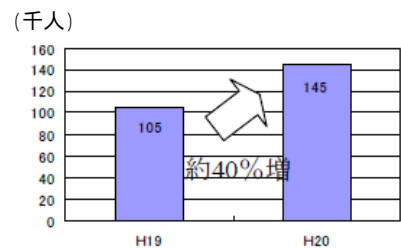


図 6-13 和倉温泉の東海方面からの宿泊客数

【自動車利用者に対する情報発信】

北陸自動車道「高岡 PA」における情報発信や、スマートインターの整備

- ・高岡市では、能越道高岡 IC 近くの道の駅「万葉の里 高岡」において地産品の販売や、市内各地域の施設および企業の見学の予約、観光情報の発信を行っている。
- ・より広域的な誘客を実現するため、これらの一般道利用者への情報発信に加え、高速道路利用者に対する情報発信を強化するための施策展開を図る。

施策展開に当たっての課題は、次のとおり。

施策展開の課題

- ・ 広域的な取組としての組織体制の確保
- ・ 広域的な位置づけの確保
- ・ 既存取組・組織との連携

6.2. 高齢者が安心して暮らすことのできる生活環境の実現

人口減少及び高齢化が急速に進行する半島地域や県境部の中山間地域では、高速交通ネットワークが未整備な地域も多く、防災や救急医療など非常時への不安が大きい。

また、これらの地域には、雪や大雨などの気象状況により交通規制をうける路線が多く、孤立する危険性のある地域も存在する。したがって、半島部や県境部の中山間地域においても、年間を通して安定した救急医療を受けることのできる仕組みを構築することが地域の安全・安心な暮らしの実現に不可欠である。

6.2.1. 二次救急医療施設の hochi 機能の一部確保

半島地域や県境部の中山間地域では、第二次救急医療施設の配置は進むものの、三次救急医療施設への到達に 60 分以上要する地域が存在しており、高次医療へのアクセスが困難な状態にある。また、二次救急医療施設についても、診療所への指定が見られるなど、指定されている施設の診療科目に格差があり万全とはいえない状況である。

三次救急医療施設へのアクセス困難な地域において、人々が安定した救急医療を受けられるためには、当該地域の二次救急医療施設が三次救急医療施設の機能の一部を確保することが有効であると思われる。これにより救急医療のカバー圏を拡大するとともに、これら施設が高次機能を相互に共有・補完することが重篤患者の初期治療への早急な処置及びその後の治療環境の整備に有益である。

そのため、三次救急医療施設への 60 分以内の到達が困難な地域において、二次救急医療施設の hochi 機能の一部確保を進めるため、以下の施策を提案する。

施策展開の方向性

- ・ 既存の二次救急医療施設について、得意とする専門分野の診療機能を高度化し、特定の分野についてのみ、重篤な患者の受入及び初期治療を可能にする。
- ・ 複数の二次救急医療施設で保有する診療分野を分担し、地域として重篤な患者の初期受入を対応する。
- ・ 情報通信基盤の充実により、二次医療施設間での情報共有を可能にすると同時に、三次救急医療施設と連携した高度医療の提供を可能とするシステムを構築する。
- ・ 三次救急医療施設への搬送を的確に行うことのできるよう、高速交通網の確保やスマートICの設置を進める。

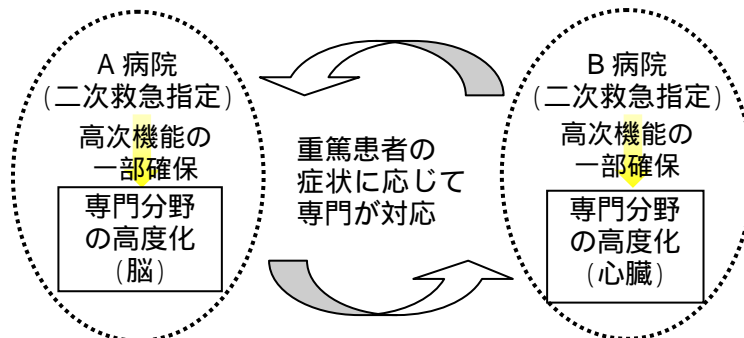


図 6-14 二次救急医療施設の hochi 機能の一部確保による機能分担

施策展開の課題

- ・ 二次救急医療施設における分野専門化（高次機能の一部確保）のための医師確保
- ・ 医療機関の情報共通を可能とする仕組みづくり

6.2.2. 二次救急医療（一部高次化）ネットワークの強化（県境を越えた医療機能の共有）

県境部では三次救急医療施設への到達が 60 分以上要する地域が双方の県に存在することから、県境を越えた二次救急医療施設の機能充実の展開が望まれる。通常、医療圏は、県の範囲で設定されるが、県境部における救急活動の効率化を促し、救命精度の向上を図るため、県を越えた救急医療が可能となる制度を構築する必要がある。

【参考】南砺広域連合の事例

福光町には公立病院がなく、平村、上平村及び白川村には診療所しかないため、城端厚生病院を依存してきたが、老朽化かつ病床数の確保の必要性から、新病院の確保が急務となっていた。平成 11 年 5 月、富山県福光町、城端町、平村、上平村、岐阜県白川村は東海北陸自動車道の開通による時間短縮と一層の生活圏の一体化を期待して、南砺中央病院の開院を主な目的とした「南砺広域連合」を設立（平成 16 年の市町村合併により解消）。

その後、平成 16 年の市町村合併により南砺市が誕生し、市内に南砺中央病院を含む 3 つの公立病院を運営することとなり、医師不足、経営の効率化の問題から各病院に持たせる機能を分担して運営することとなった。

そのため、県境部における二次救急医療施設の高次機能の一部確保を進め、県境を越えた連携を可能にするため以下の施策を提案する。

施策展開の方向性

- ・ 県境部の中山間地域においては、地理的状況から二次救急医療施設（一部高次化）の連携が困難であり、県内に限定した搬送・受入において障壁があるため、行政の単位にとられない広域的な組織体制を構築し、一元的に対応する。
- ・ 県境を越えた二次救急医療施設（一部高次化）の連携を円滑に進めるため、自治体が連携し、医療情報の共有や搬送ルートの確保を可能にするシステムの構築など、情報通信基盤の整備に取り組む。

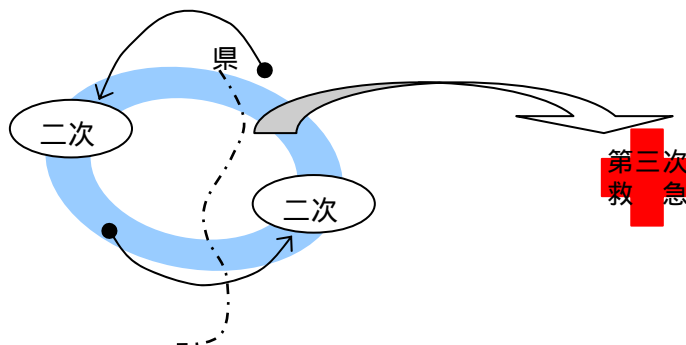


図 6-15 県境を越えた二次救急医療施設（一部高次化）の連携

施策展開の課題

- ・ 初期治療後の三次救急医療施設への安全な搬送

北陸圏の地勢は急峻で脆弱であり、全域が豪雪地帯及び特別豪雪地帯であることから、道路の通行規制区間も多い。救急医療搬送への不安も大きく、県際部の道路交通ネットワークの防災対策の重点的な推進を提案する。

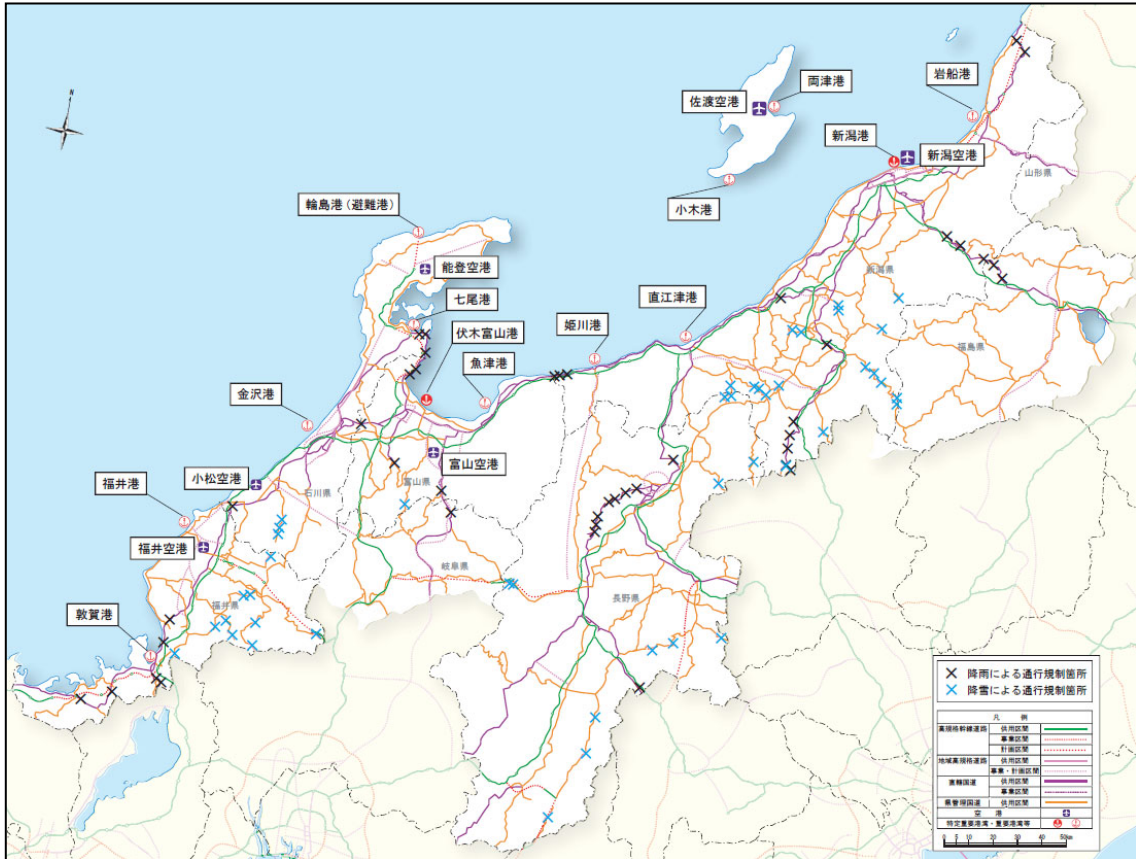


図 6-16 直轄国道における通行規制の状況